

# 将来計画（2022～2030年度）に対する自己点検評価報告書（2022年度）

自己点検・評価委員会

## 1. 自己点検評価の対象

2022年度の自己点検評価は、新潟食料農業大学将来計画の第一期中期目標・中期計画（2022～2026年度）におけるアクションプラン（2022～2026年度）総数 373 項目の内、2022年度を達成年度とする計 201 項目（表 1）を対象に、その達成度について点検評価を行った。

なお自己点検評価は、ドメインごとにそれぞれのドメイン責任者が以下の基準に基づき実施し、その結果について自己点検評価委員会にて審議・承認した。

### <自己点検評価の基準>

- S評価 年次計画を上回る実績を達成した
- A評価 達成/ほぼ計画どおり（達成度 90%以上）
- B評価 部分的達成/一部達成あるいは計画より遅れている（達成度 51%-89%）
- C評価 遅延/大幅に遅れている（達成度 11%-50%）
- D評価 未着手/ほとんどもしくは全く着手できていない（達成度 10%以下）

ドメイン		総アクション プラン数	2022年度 実行計画分
ドメインⅠ	大学拡充計画の推進	23	17
ドメインⅡ	教育の質保証	61	20
ドメインⅢ	研究力の向上	49	28
ドメインⅣ	社会連携の充実	35	21
ドメインⅤ	国際交流活動の推進	19	4
ドメインⅥ	学生支援の充実	89	52
ドメインⅦ	大学スポーツ振興の推進	29	12
ドメインⅧ	学生募集活動の強化	26	23
ドメインⅨ	内部質保証システムおよび大学ガバナンスの強化	42	24
	計	373	201

## 2. アクションプランの達成状況

2022年度アクションプランの達成状況は、全体で「S評価：年次計画を上回る実績を達成した」が 1.0%（2項目）、「A評価：達成/ほぼ計画どおり（達成度 90%以上）」が 90.0%（181項目）、「B評価：部分的達成/一部達成あるいは計画より遅れている（達成度 51%～89%）」が 4.5%（9項目）、「C評価：遅延/大幅に遅れている（達成度 11%～50%）」が 1.5%（3項目）、「D評価：未着手/ほとんどもしくは全く着手できていない（達成度 10%以下）」が 3.0%（6項目）であった。

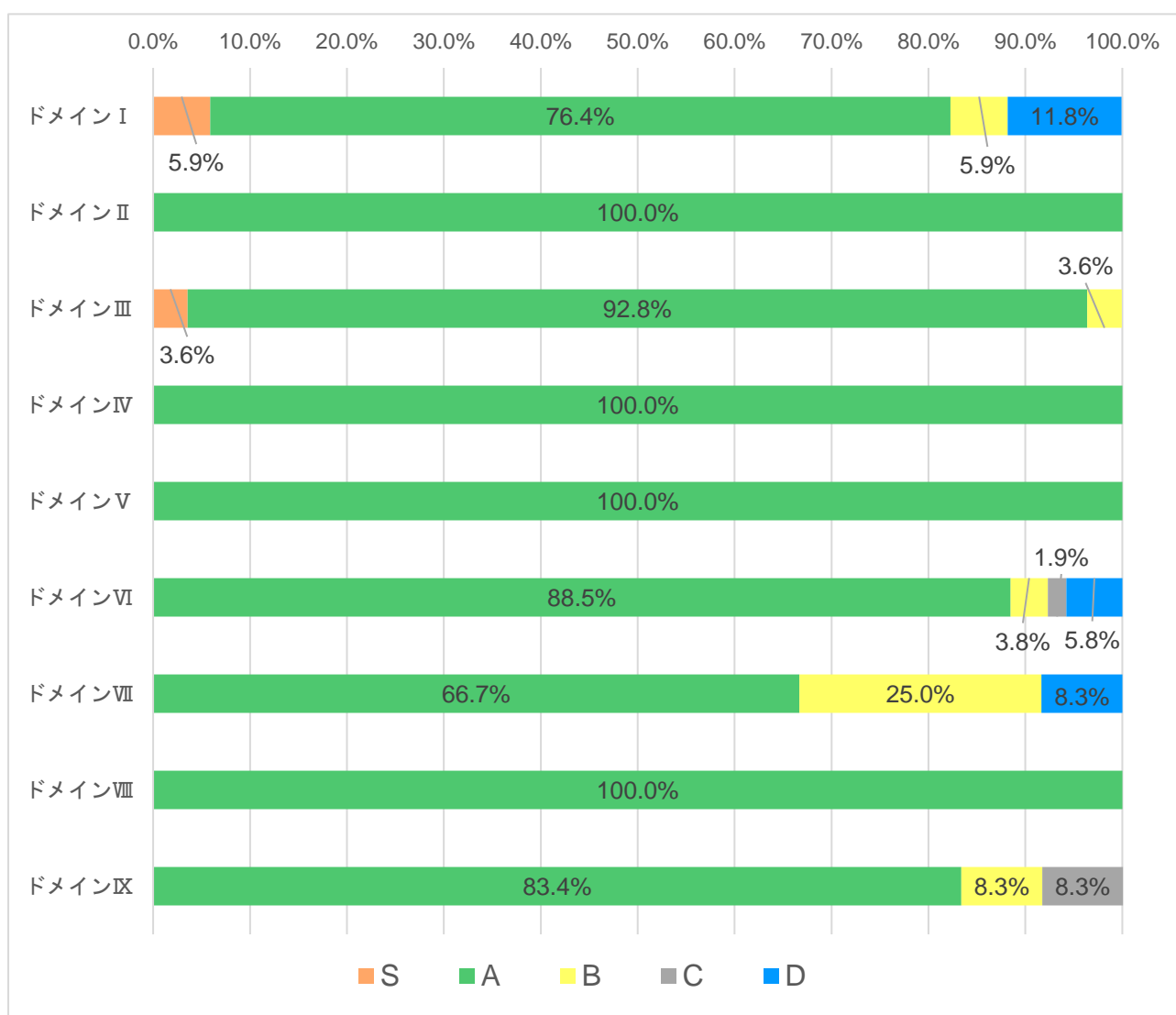
ドメイン別にみると、A評価以上の割合が 90%を超えているのは「ドメインⅡ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅷ」、80%を超えているのは「ドメインⅥ・Ⅸ」であった。一方、C評価およびD評価の割合が高かったのは、順にドメインⅠ（11.8%）、ドメインⅦ・Ⅸ（8.3%）、ドメインⅥ（7.7%）であった。

※ ドメイン別の詳しい状況は次ページの<表 1>および<図 1>を参照。

<表 1> ドメイン別評価基準別度数

ドメイン		2022 年度 実施計画分	評 価				
			S	A	B	C	D
ドメイン I	大学拡充計画の推進	17	1	13	1	0	2
ドメイン II	教育の質保証	20	0	20	0	0	0
ドメイン III	研究力の向上	28	1	26	1	0	0
ドメイン IV	社会連携の充実	21	0	21	0	0	0
ドメイン V	国際交流活動の推進	4	0	4	0	0	0
ドメイン VI	学生支援の充実	52	0	46	2	1	3
ドメイン VII	大学スポーツ振興の推進	12	0	8	3	0	1
ドメイン VIII	学生募集活動の強化	23	0	23	0	0	0
ドメイン IX	内部質保証システムおよび大学ガバナンスの強化	24	0	20	2	2	0
計		201	2	181	9	3	6

<図 1> ドメイン別達成状況



### 3. 評価

2022 年度アクションプランに対する自己点検評価を実施した結果、「A 評価：達成/ほぼ計画どおり（達成度 90%以上）」が全体の 90.0%を占め、それぞれの推進部署にて計画どおり進捗することができていると評価した。

一方、A 評価以上の割合が最も低いドメインⅦについては、強化部会議の実体性や監督・事務局等の連携体制が不十分であることも進捗遅れの要因であると分析されるため、2023 年度は推進体制について見直しを図る必要がある。

併せて B 評価～D 評価であったアクションプラン（計 18 項目）については、2022 年度の進捗状況を踏まえ以下のとおり改善・対応する。

#### 【未達成アクションプランの状況と改善方策】

##### 《ドメインⅠ》大学拡充計画の推進

###### ■ 中期計画 1

2024 年 4 月を開設年度とする新たな学部学科の設置企画を推進する。

###### アクションプラン 1

- 調理師および栄養士を養成する学部・学科の設置計画および事業計画を策定する。

（自己評価） B

（進捗状況） 2024 年 4 月開設に向けて基本計画の策定を進めたが、学校法人全体の学部・学科等新設構想の見直しにより、本企画の開設年度についても見直すこととなった。

（改善方策） 2023 年度以降、アクションプラン 4「食・農および環境分野を基盤とする SDGs の達成に貢献する新たな学部学科等を構想し年次計画案を策定する。」に含む計画として継続的に検討・対応する。

###### ■ 中期計画 5

教育研究機能および社会連携推進機能の更なる充実化に向けた施設整備計画を策定する。

###### アクションプラン 12

- 胎内キャンパスにおける講義室および図書館の拡充、研究施設の充実等について検討する。

（自己評価） D

（進捗状況） 新型コロナウイルス感染防止の観点から利用人数等を制限する中での運用が続いており、利用実態やニーズ把握が困難であったため 2022 年度は未着手となった。

（改善方策） 2023 年度以降、利用者等へのアンケート調査やヒアリング等を通じて、現状の課題やニーズを確認し、充実化の必要性を含めて継続検討する。

###### アクションプラン 13

- 新潟キャンパスにおける社会連携推進機能の拡充等について検討する。

（自己評価） D

（進捗状況） 新型コロナウイルス感染防止の観点から社会連携推進室の重要な機能のひとつである学外者の利用を制限しており、利用実態やニーズ把握が困難であったため 2022 年度は未着手となった。

（改善方策） 2023 年度以降、関係者へのアンケート調査やヒアリング等を通じて現状の課題やニーズを確認し、充実化の必要性を含めて継続検討する。

---

## 《ドメインⅢ》研究力の向上

### ■ 中期計画 12

産業界・自治体および大学間連携を促進し、外部資金を獲得する。

#### アクションプラン 45

- 国内外問わず類似の研究機関の取り組み等について継続的に調査・分析する。  
(自己評価) B  
(進捗状況) 国内大学における取組みの調査を開始したが海外研究機関については未実施。  
(改善方策) 2023年度より海外のベンチマークを明確にし、具体の調査を実施する。

---

## 《ドメインⅥ》学生支援の充実

### ■ 中期計画 2

これまで実施してきた手法の課題を踏まえ、より効果的かつ効率的なデータ収集・分析・共有の手法の開発に取り組む。

#### アクションプラン 6

- 学内で保有している学生支援に関する各種情報(学生データ、アンケート調査結果等)を調査し、新たに収集すべき情報等について検討・決定する。  
(自己評価) C  
(進捗状況) IR室を中心とした事務局組織にて現有情報を調査・リスト化したが、その後の検討には至っていない。  
(改善方策) 2023年4月新設の「IR推進センター」を推進部署として、2023年度のアクションプランに追加設定し対応する。

### ■ 中期計画 10

学生生活満足度の向上に向けた各種支援サービスを充実させる。

#### アクションプラン 37

- 満足度評価に必要な情報を整理の上、必要に応じて新たな調査を実施し、満足度向上の施策を検討する。  
(自己評価) B  
(進捗状況) 学生満足度アンケート結果について、課題別にカテゴリー分類するなどの情報精査に取り組んだが具体的な施策の検討には至っていない。  
(改善方策) 2023年度はこれら情報に基づき、満足度向上施策について具体的な検討を進める。

### ■ 中期計画 13

人権保護およびハラスメント防止に向けた支援を充実させる。

#### アクションプラン 56

- 1年生対象の人権教育講習(同和問題講習)の受講アンケートを実施・分析し、より効果的な内容へ改善する。  
(自己評価) D

(進捗状況) 受講アンケート未実施のため分析および改善検討は未着手。

(改善方策) 2023年度は必要に応じてアンケート内容を見直しの上、受講者アンケートを実施し内容改善に向けて検討する。

#### アクションプラン 57

- 外部講師による「デートDVセミナー(仮称)」を企画・実施する。

(自己評価) B

(進捗状況) 実施内容や実施方式等について検討を行ったが、関連情報の収集、実施計画の策定等に時間を要し、2022年度での実施には至らなかった。

(改善方策) オンライン開催を含め実施計画を策定し2023年度内に実施する。

#### ■ 中期計画 19

保護者ニーズに基づく情報発信を強化するとともに交流機会を充実させる。

#### アクションプラン 87

- 保護者のニーズを把握する方法を検討・実施する。

(自己評価) D

(進捗状況) 未着手。

(改善方策) 2023年度より他大学事例の収集、その対応案の検討に着手する。

#### アクションプラン 88

- 保護者のニーズに基づき、保護者会および保護者向けの情報発信(後援会誌含む)の内容を更に充実する。

(自己評価) D

(進捗状況) UNIPA機能の活用による保護者向けの情報発信の充実化を検討し2023年度より学生の出欠・成績情報を提供することを決定したが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり保護者会の開催および保護者のニーズ調査の実施には至らなかった。

(改善方策) 2023年度計画として上記UNIPAでの情報発信を開始するとともに保護者会の開催ならびに保護者のニーズを把握し、各種媒体での情報発信について検討・実施する。

---

### 《ドメインⅦ》大学スポーツ振興の推進

#### ■ 中期計画 1

学生ニーズに基づき、スポーツ活動と学業の両立を支援する体制を整備する。

#### アクションプラン 1

- 学生ニーズを収集するために指定強化部員を対象としたアンケート調査を実施する。

(自己評価) D

(進捗状況) 全学生を対象とするアンケートを実施したが、コロナ禍における活動制限下で指定強化部員へアンケート調査することに関して実態把握の正確性の観点から見合わせることにした。

(改善方策) 強化部監督および学務課と連携の上、調査内容を精査の上、2023年度に実施する。

#### ■ 中期計画 2

課題分析に基づき、学修支援およびキャリア支援を更に充実させる。

## アクションプラン5

- 文武一道を実践するために、各種データ（学生アンケート結果、教学データ等）を分析し、課題を抽出する。

（自己評価） B

（進捗状況） 指定強化部員の教学データ（取得単位数、GPA、必修科目成績など）についてその状況を確認したが、詳細な分析および課題分析には至っていない。

（改善方策） 2023年度計画として、学務課と連携の上、詳細分析ならびに課題抽出を実施し、課題解決策を検討する。

### ■ 中期計画9

**安心・安全なスポーツ活動環境・管理体制を構築する。**

## アクションプラン27

- より安全・安心な活動を実践するために必要な設備・備品等について整理し、原案をまとめる。

（自己評価） B

（進捗状況） 体育館および付属棟トレーニングスペースにおける新型コロナ感染防止上の利用ルールを策定したほか、トレーニング機器の利用講習等を実施したが、安全・安心に向けた必要な設備・備品等の原案作成には至っていない。

（改善方策） 強化部会議に加えて総務課を推進部署として追加し、2023年度のアクションプランに追加設定の上、各競技団体でのガイドライン等の調査および各監督へのヒアリング等を通じて必要な設備・備品等について原案作成する。

## アクションプラン29

- 練習環境およびスポーツ施設・設備の安全点検を実施する。

（自己評価） B

（進捗状況） トレーニング機器の利用希望者に向けた事前講習会を実施したほか、各監督レベルでの日常的な点検作業を実施したものの、点検ルールや基準等が不明確であることから次年度以降の継続課題とする。

（改善方策） 2023年度計画として、総務課および各監督で連携の上、チェックリスト等を作成し点検作業を実施する。

---

## 《ドメインⅩ》内部質保証システムおよび大学ガバナンスの強化

### ■ 中期計画11

**業務の合理化・効率化に関する取り組みを更に推進する。**

## アクションプラン29

- 部課室単位の業務マニュアルを作成し、リアルタイムでの更新作業を継続する。

（自己評価） B

（進捗状況） 各部署にて作成・管理していた業務マニュアルについて、事務局内のSD推進部会にて共通フォーマットを策定したが、2022年度内での入力完了には至らなかった。

（改善方策） 2023年度上期を目途にマニュアルを完成させオンライン上へのアップロード作業を完了させる。

## ■ 中期計画 12

人権保護およびハラスメント防止に関する取り組みを充実させる。

### アクションプラン 32

- 関連規程および相談体制等について点検し、必要に応じて策定・改定する。

(自己評価) B

(進捗状況) 既存の規程等について不備や改善の必要性がないことを確認した。一方、ハラスメント相談担当者の変更時に UNIPA 上の情報が未更新であったことが発覚した。

(改善方策) 次年度以降、委員会での各種規程の改定検討と併せて関連する事務作業の洗い出しを行うなどの業務管理を徹底し遺漏のないよう対応する。

## ■ 中期計画 14

リスク管理体制および危機管理体制を点検し、より適切な「予防と対処」ができる体制へと強化する。

### アクションプラン 36

- 危機管理委員会の役割や責任、連携体制等について点検し、必要に応じて改善する。

(自己評価) C

(進捗状況) 危機管理基本マニュアルにて明文化されている「危機管理委員会」について、委員会規程が未整備であることが確認され、対応検討したものの 2022 年度中の規程策定には至らなかった。

(改善方策) 危機管理委員会および総務課を推進部署として、2023 年度のアクションプランに追加設定し対応する。

### アクションプラン 39

- 個人情報等の保護管理に関する教育プログラムを継続的に実施する。

(自己評価) C

(進捗状況) これまで図書情報委員会で担ってきた個人情報教育プログラムについて、法的な観点を踏まえた内容の見直しに着手したが、2022 年度での完成・実施には至らなかった。

(改善方策) 2023 年度より、推進部署を個人情報等保護委員会(2023 年 4 月新設)に移管し、新たな教育プログラムとして企画・実施する。